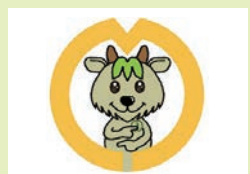


一般社団法人 三重県聴覚障害者協会

「一般社団法人 三重県聴覚障害者協会」の歩みは、昭和22(1947)年に結成された「三重県聾聵倶楽部」に始まります。その後、法人として認可され、改称して現在に至ります。聴覚障害者の円滑な社会参加のために活動を続ける同協会は、来年11月に開催予定の「第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025」成功に向け、全面的なサポートを行っています。



三重県聴覚障害者協会のキャラクター「できるカモン」※

お問い合わせ

「一般社団法人 三重県聴覚障害者協会」事務局
津市桜橋 2丁目131
TEL 059-229-8540
FAX 059-223-4330

今回、「一般社団法人 三重県聴覚障害者協会」(2023年度の正会員300名)について教えてくれたのは、会長の深川 誠子さんと体育部長の中西 政次さんです。手話通訳者も交えての時間は、とても有意義で楽しいものでした。

——まず、これまでの活動内容や成果について教えてください。

深川：結成以来、協会では聴覚障害者に豊かな知識と正確な情報を提供して、円滑な社会参加を進めることを目的に活動しています。平成3(1991)年に法人として認可され、同26(2014)年に現在の一般社団法人に移行しました

中止になったという背景があったからです。それでも開催が決まると、関係者全員が短期間で熱心に取り組んでくれて感激しました。改めて、仲間は素敵だーと思います。

——来年秋に開催予定の「第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025」について教えてください。

中西：デフリンピックとは、デフ+オリンピックのこと、デフ(Deaf)とは、英語で「耳が聞こえない人」という意味です。大正13(1924)年にパリで開催されて以来、国内での開催は初めてのことです。開催期間は、来年11月15日(土)から26日(水)まで。競技は陸上やバドミントン、バスケットボールなど21種目で、70〜80か国地域から約3000人の選



国際ろう者スポーツ委員会 ICSDの公式ロゴマーク※
ICSDロゴに関する一切の知的財産権は、国際ろう者スポーツ委員会(ICSD)が保有し、日本では全日本ろうあ連盟が管理しています。

が、その間も聴覚障害者が悩みを相談でき、集える場所がほしいと要望し続けました。その結果、同24(2012)年に「三重県聴覚障害者支援センター」を設置できたのは、大きな成果だと思っています。その後には、4年後には、東海地方で初めて「三重県手話言語条例」が制定されました。誰もが「手話」に親しみ、広く使用され



「三重県手話言語条例」成立を喜ぶ皆さん※

手が参加予定です。

——とても歴史ある大会なのですね。

深川：そうですね、パラリンピックに比べて知名度が低いのが現状です。そのため、協会でもさまざまな啓発・支援活動を行っています。たとえば、「三重県聴覚障害者福祉大会」「みみフェスティバル」「手話フェスティバル」などで短編ドキュメンタリー映画「みんなのデフリンピック」の上演や、応援ビデオメッセージの撮影などを行っています。

中西：県内には、日本代表選抜をめざして頑張っている、テニスやバレーボール、



「第17回 三重県ろうあ者福祉大会」(現「三重県聴覚障害者福祉大会」)の集合写真※

る共生社会の実現に向けて踏み出すことができたのです。「手話」が言語だと認識され、聴覚障害者への理解が少しずつ進んでいることも実感しています。でも一方では、災害が起きた時などには孤立してしまう、福祉施設に手話ができる職員がほとんどいないなど、課題が多いのも現実です。

——課題や困難が多い中、令和4年に全国的な女性集いを成功させ、改めて感じることがあったそうですね。

深川：そうですね。「第52回全国ろうあ女性集い in MIE」を開催したのですが、決断するには時間がかかりました。前年に開催予定だった「三重とこわか大会」(第21回全国障害者スポーツ大会)が

バドミントン選手たちがいます。

私たちは県内アスリートのサポート活動も継続して行っています。

——それはぜひ応援したいですね。私たちにもできることはありませんか？

深川・中西：協会では、デフリンピックやデフスポーツを応援する「デフスポーツ・サポーター」を募集中です。ご応募お待ちしております。

——ありがとうございます。

インタビュアー：中村真由美



中西 政次さん



深川 誠子さん



協会入口に掲げられた幟旗

※印の写真は取材先から提供していただきました